

看護学部

1. 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

看護学部は、教育理念に基づき、①豊かな教養と高い倫理観を醸成すること、②自ら考え、課題を発見し、解決の方法を見出し、行動できる主体性と創造性を涵養すること、③看護の本質を熟考し続け、どんな状況であっても最善の看護を提供できる実践力を身につけることを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下7点とします。

- 1) 高い倫理観を備え、他者と関係を築く力
 - ①人間を多局面から統合的に理解することができる。
 - ②他者と相互理解を深め、成長し合う関係を築くことができる。
 - ③人間の尊厳と権利を擁護することができる。
- 2) 課題を発見し、対応する能力
 - ①情報を目的に応じて活用することができる。
 - ②課題を発見し、優先順位をつけて、課題解決の方法を考え対応できる。
 - ③学際的な幅広い知識と看護学の専門知識を体系的に修得することができる。
- 3) 健康と生活を包括的、継続的に支援する看護実践力
 - ①特定の健康課題に対応した生活を支援する看護実践ができる。
 - ②科学的根拠に基づく看護実践ができる。
 - ③地域の健康課題をとらえ、課題解決のための方法を見出し実践できる。
- 4) 看護者の責務を認識し、他職種と協働する力
 - ①社会における看護の役割と責務を理解できる。
 - ②他職種の専門性を尊重し、情報交換や問題解決のための連携ができる。
- 5) 変化を生み出す力
 - ①社会の動向や人々のヘルスケアニーズの変化に関心を持つことができる。
 - ②新たな健康課題に対応し、主体的・創造的に看護を実践しようとする態度を身につけることができる。
 - ③自分の力を信じて挑戦し続けることができる。
- 6) 国際的活動の基本的能力
 - ①世界の様々な国や地域の健康上の課題とその背景を理解できる
 - ②異文化や異なる価値観を持つ人を受け入れ、関係を築くことができる
 - ③看護専門職として国際貢献に関心を持つことができる
- 7) 自己研鑽を継続する能力
 - ①生涯を通じて、自発的な能力開発を継続しようとする態度を身につける
 - ②看護を探究し続けるために、自己の課題を見出すことができる

2. 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

(1) 教育課程の編成、教育内容

看護学部のカリキュラム編成においては、ディプロマ・ポリシーで示された卒業時に修得すべき能力を、学生が4年間でバランスよく、確実に修得できるように科目を配置しています。

また、教育の方法は、学生の主体性を引き出し、学生自らが進んで調べて考えるという学ぶ力を身につけることを重視するアクティブ・ラーニングを主体としています。

したがって教員には、アクティブ・ラーニングの理念を理解し、教授方法を修得すること、学習環境を整え、明確な課題と学習目標を設定して学生の学習を支援することが求められています。

- 1) ケアすることの価値について熟考し、自分自身の実践の核となる看護観を構築できるように支援する。
- 2) 教養科目を充実させ、安定した人間性と高い倫理観の醸成や、人間、社会、環境の理解など学際的な知識の理解を支援する。
- 3) 「知識を与えるだけの教育」から「自ら考える力を醸成する教育」への転換を図り、学生自らの気づきや考えを尊重し、学生が意見や考えを自由に表現し、行動に移せるように支援する。
- 4) 健康が人々の生活や文化に密接に関係していること、生活を支援することがどういうことかを深く理解して、生活に着目した看護が実践できるよう講義、演習、実習の繋がりを重視した教育を行う。
- 5) 多様な実習の場を提供し、体験学習を通して、地域におけるケアの重要性を認識できる教育を行う。
- 6) 他職種と連携・協働する重要性とその方法を理解するために、実際の活動を通して実践的に学べるよう支援する。
- 7) グローバルな視野で世界の健康課題を理解できるよう異文化体験、海外研修等の教育内容を提示する。
- 8) 学生が看護学を基盤とした自らのキャリアデザインを描けるように支援する。

(2) 教育方法

- 1) 常に看護とは何かを探究し続け、新たな看護の創造に貢献できる人材を育てます。専門科目において、看護基礎ゼミ、看護と倫理、看護研究法、課題研究、統合実習などの看護について探究し、思考することを学ぶ科目を、学生の学習レベルに応じて段階的に配置します。
- 2) 人を生活者として理解するために、1年次から実習を配置します。2年次・3年次では、病気や健康障害による生活への影響と人々の反応に着目した看護の原理と方法を学ぶ実習科目を配置します。
- 3) 多職種との連携や協働について学び、看護の責務と役割を理解するために、一般教養科目、専門科目における講義、実習を配置します。
- 4) 学習者の主体性を引き出し、自立して行動できる力を育てる教育を行います。講義・演習科目において、アクティブ・ラーニングを推進します。また、看護実践でのあらゆる状況、患者の状態を学習者の学習準備状況に合わせて再現した環境での体験型学習であるシミュレーション教育を行います。

(3) 学修成果の評価方法

教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。具体的な評価指標は次の4項目。

- 1) 授業目標への到達度の総合的評価：各科目において、定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等
- 2) 看護実践力評価：演習科目、実習科目における取り組み、看護師国家試験模試、看護師国家試験
- 3) 半年ごとの自己省察と目標修正・設定（学修ポートフォリオおよび上記 1) 2) をもとに、担任教員またはチューター、実習担当教員と面談を行う）
- 4) 就職先アンケート、卒業生アンケート

3. 「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

看護学部は、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような能力・資質、目的意識をもった人物を求めます。

- 1) 看護学を学ぶための基礎的能力を有している人
〔求める要素：知識・技能〕
- 2) 人間の生命や尊厳を大切にし、他者の苦痛や悩みを理解しようとする人
〔求める要素：思考力・判断力〕
- 3) 学問への真摯な態度を持ち、自ら学ぼうとする人
〔求める要素：関心・意欲・態度〕
- 4) 人間の可能性や柔軟な心信じ、人間に関心を寄せられる人
〔求める要素：思考力・判断力、知識・技能〕
- 5) 失敗を恐れず、失敗から謙虚に学び、成長しようとする人
〔求める要素：関心・意欲・態度〕
- 6) 看護を通して社会に貢献しようという志を持つ人
〔求める要素：表現力、主体性・多様性・協働性〕